

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 1月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100017		
法人名	(有) ウェルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ温品		
所在地	広島市東区温品7丁目13-23 (電話) 082-508-6188		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100017-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年1月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は入居者様の自立支援にスタッフ全体でケアに取り組み、具体的な環境整備を行い成果につなげている。中でも「Aユニット」「Bユニット」と形式上は分かれているが、「18人を皆で支える」という気持ちでスタッフ全体が一丸となり連携、協力しながら入居者様支援を行っている。また、やりがいに溢れていることを前提に、安心して働けるよう、希望休やプチリフレッシュ休暇等を工夫してとることで、離職ゼロにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者と職員が連れ立って散歩などをすれば、地域住民との挨拶など日常的な交流があるほか、事業所内において時節に応じた行事など、感染症対策に配慮しながら利用者が生き生きと生活できるような配慮がなされている。
定期的な家族会や、行事企画においては計画に基づき実行の後は振り返りも行っているほか、外出行事等の際は法人グループ内で乗用車の融通なども行うなど、事業所のおかれた環境を十分に活かしながら企画を行っている。
さらに、希望休やリフレッシュ休暇、有給休暇の取得促進など、離職防止対策にも力を入れている結果、職員の働きやすさにも配慮がなされている。

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を各ユニットのスタッフルーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に全員で復唱している。また、実践目標を明確な行動指針とし、実際に環境整備やケア実践につなげている。	事業所理念に基づいた「今月の目標」を定め、職員の動きや利用者対応の向上に役立てている。また、チャレンジシートで職員の達成目標を決め、進捗状況を管理者との面談で確認し合い、事業所内の環境整備やケアの向上実践につながっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方のご理解のもと、町内会の清掃や、お祭りの飾りつけなど、できる範囲で交流している。コロナウイルス対策でマスクを必ず着用したうえで近所を散歩した際には、地域の方に挨拶をしている。	地域の清掃への参加や、町内の回覧板がまわってくるほか、町内会へも加入し、祭りの飾りつけなどの行事の手伝いも行っている。また、事業所の前には気軽に誰でも座れるベンチがあり、近所の人が休憩に使用するなど、日頃から地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	体調に問題ない事と、必ず玄関先で検温をして頂くことを必須として、見学者等も随時受け入れ、説明等も行っている。耳鼻科の往診医を探してもいなかったため、地域包括センターに相談したこともある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ対策にて、資料のみの開催としているが、2ヵ月に一度の会議は定期的に継続している。やすらぎ新聞を2ヵ月に1回作成しており、全ご家族様にお配りしている。	運営推進会議は感染症対策のため資料送付のみとなっているが、通常の会議開催時は町内の役員や家族、地域包括支援センター職員なども参加し、事業所運営に関する意見を聞いている。会議では、町内会長から災害時の避難方法について情報提供を受けるなど、会議で出た意見を運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	何か分からない事があれば、介護保険課へ相談している。また、事故が起こった際は、事故報告書を作成し、迅速に報告を行っている。	市とは主に地域包括支援センターを通じて連携を図っている。近隣の医療機関に関する情報提供を受けたり、センター主催の地域ケア会議への参加など、市との協力関係を築くような取組みが継続している。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ間での「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催継続し、関連する内外研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年2回開催している。玄関にはセンサーを活用して、施錠はしていない。外に行きたい際は、傾聴し散歩等で寄り添って対応している。</p>	<p>身体拘束や虐待を予防する目的で設立された委員会には、職員は継続的に参加しており、法人内の研修だけでなく外部研修にも参加している。定期的な職員研修への継続的な参加により、身体拘束をしないケアの実践に向けて努力している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束同様、「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催継続し、関連する内外研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年2回開催している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今までは、全職員対象に法人内研修で学んでいたが、コロナ対策で研修が中止となり、参加できていない。オンライン研修が少しずつ整備されてきているので、随時参加していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、分かりやすく丁寧に説明を行っている。また、「不明な点や質問があれば、遠慮なくお申し付けください」ともあわせてお伝えしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会は開所以来夏・冬の2回の定期開催を継続しており、その場での意見・要望は運営に反映させるよう心がけている。しかしながら、コロナ対策にて、集まるのは現在中止している。書面でご様子等を配布し報告としている。</p>	<p>家族会を定期的で開催しており、感染症対策のため実施できない場合は、利用者の様子を書面で家族に報告し、適宜意見を収集している。家族から、加湿器に関する意見が挙がった際も、すぐに対応するなど利用者や家族の意見を運営に反映させる体制がとられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的実施するケアカンファ・ミーティングは継続している。この場での意見・提案はケア等に反映させている。また定期的な職員面談も行っている。面談内容は記録に残し、必要に応じて人事の方へ報告も行っている。	定期的なカンファレンスやミーティングで職員からの意見を集めたり、具体的な業務改善には管理者に直接メモで渡し、すぐに改善している。また、チャレンジシートに基づく半年に1回の個人面談での意見収集も行っている。職員意見に基づき、希望休を月2回取れる仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年の目標として、「評価シート」を用いてスタッフ個々の目標設定を行ってもらい、達成に向けての助言や提案を面談の機会を設けて行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内は全職員に回覧し、希望を叶えるようにしている。また、後任育成も大事にしており、必要な研修を受けられるよう手配している。安心して働きながら習得していける環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内の他GHとの交流の場としても合同の研修会等（感染症予防研修等）を行っている。現在はコロナ対策でそのほとんどが中止となっているが、地域のケアマネ会議にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず事前面談を行い、ご家族やご本人のお話を聞いた上で入居1ヵ月程度の暫定ケアプランを作成し、GHに慣れて頂くための支援を行なっている。例えば将棋が得意な方には、将棋を媒介に馴染みの関係をきづいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安な事があればいつでも聞ける雰囲気づくりを行っている。また、こちらからも入居後のご様子を随時電話でお伝えし安心してもらっている。月に1回手紙とあわせて一人2枚を目安に写真をお送りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	月に2回の往診を主とし、随時必要に応じて主治医や訪問看護師、薬剤師とも電話等で情報を共有し、その方に合った対応を考えて実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「入居者様と共にある」という感覚をスタッフは常に持っている。スタッフが出勤時「よろしくお願ひします」の挨拶に対し、入居者様も「今日もがんばってね」帰宅時「失礼します」の声かけに「気をつけて」と返してくれるほどの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	年2回の「家族会」では積極的な意見交換が行えており、こちらの支援方針についても理解いただいております、相互の連携が確認できています。現在はコロナ対策で中止しています。書面や写真等でご様子を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策にて原則面会禁止であるが、希望について工夫しながら窓越しの面会や、距離を保って玄関越しの面会を随時受け入れ、旧知の関係やなじみの方との関係を継続するように努めるようにしている。また、I-PADを活用し、2ユニットともZOOMでの面会も出来るよう環境を整備した。	家族の希望を踏まえ、感染症対策を行ったうえで墓参りができるように配慮したり、タブレット端末を使用してリモート面会ができるようにしている。また、終末期における面会は実現できるように配慮し、本人がこれまで築いてきた関係性が途切れないように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	スタッフが間に入って関係をつないだり食事盛り付けや、机拭き、お盆拭き、チームレクなど、共同で連携して行う作業を入居者様全体で行いながら、入居者同士の関係強化を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された御家族からお便りや、野菜等のご寄付を頂いたりする機会がある。近隣で出会った際も、気さくに声をかけて頂いている。「以前お世話になりました」とイチゴを頂いたりもした。感謝しかありません。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時前事前面接に伺い、本人の生活空間を拝見し、GH居室に暮らしやすい空間を創出するように努めている。思いを言葉にできない方には、ご家族にも伺いながら、ご本人はどうしたいかを考えて対応している。	事業所内で行われるすべてのカンファレンスに、本人の思いや意向を取り入れているほか、意向表出が難しい利用者には、意向をくみ取って実現されるよう努力がなされている。また、普段から家族の動向を気にする利用者には、本人が納得する答えを伝えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを用いて把握している。基本情報を作成し、可能な限り確認できる状況を整えている。入居前のケアマネージャーに情報を聞いたりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者個々に「生活状況記録」という暮らしの現状把握のため日々記入するシートを用いて継続して把握できる仕組みがある。全職員、出勤前に確認するようルール化している。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者個々にケア担当を決めている。ご家族からも意見を随時受け付けており、月に1度のカンファレンスを開いて話し合っている。それらをふまえて、各階の計画作成担当者がケアプランを作成している。</p>	<p>利用者別に担当を決め、毎月のモニタリング記録の記入を行っているほか、家族からの意見の反映や、カンファレンスにおける計画作成担当者のケア計画立案にも協力している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者個々に「生活状況記録」という暮らしの現状把握のため日々記入するシートを用いて継続して把握できる仕組みがある。全職員、出勤前に確認するようルール化している。また、職員連絡ノートを活用し、情報共有を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>実施したことはないが、短期入所の利用も可能である。もし空室があり、その間に短期間の利用希望があれば可能である。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所のスーパーへ買い物やゴミ出しを行っている。天気やその日の気分を考慮して対応を行っている。行く際は必ずマスクを着用し、けががないように配慮している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の医療機関と医療連携体制を組み、必要に応じての受診通院の実施、またグループ主治医の往診を月2回定期健康診断年1回などを継続している。</p>	<p>近隣の医療機関からの訪問診療を受けているほか、定期的な歯科受診ができるように計画を立てている。本人や家族の選んだかかりつけ医を選ぶことができ、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な訪問看護が継続して受けられている。訪問看護師との随時の報・連・相もでき、しっかりと入居者の支援ができています。おかげさまで看取り介護をご希望されれば最後までケアさせて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当GHは医療法人グループの一員であり、入退院時の連携はしっかり取れている。加えて近隣の入院応需の総合病院（JR鉄道病院）とも医療連携体制を組み普段から関係構築も図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の意向を吸い上げる書面や、重度化した際の指針等も作成しており、これに沿ってスタッフで連携して支援する方向を定めている。	日頃から重度化した場合や看取りについて職員間の体制を整えるようにしているほか、実際に重度化した場合には、家族への説明をはじめ、スタッフ間の連携もとるようにしている。医師や看護師も含めた対応会議も1週間おきに開催し、中には数十回にわたり検討する場合もあるなど、看取り対応に積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	行方不明者捜索訓練を事業所内において開催し、注意喚起するような体制をとっている。しかし応急手当等実践力をつけるという点においてははいま少し取り組む必要があると感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	別法人ながら隣にある「特別養護老人ホーム」は緊急時の連携を確約して下さっており心強い。加えて、運営推進会議において町内会長様より「防災無線」の設置を提案して下さい、消防署を通じて拠点として設置を許可して頂いた。法人内では、GH大須と連携している。	近隣の別法人の特別養護老人ホームと災害時の連携についての申し送りがあるほか、避難誘導訓練における消防署の立ち合いも受けている。また、台所もIHコンロにしたり、町内会長から提案を受けた防災無線の設置など、日頃から災害対策の取り組みを継続している。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全スタッフがそのように心がけ行動しているつもりだが「これがベスト」という対応は存在しないと思う。常に自らを律することを怠らず入居者個々に接していきたいと思う。また、身体拘束・虐待防止委員会が2カ月に1回のペースで目標を掲げ、毎朝唱和している。	一人ひとりの人格や誇りを尊重し、例えば利用者の状態像などの申し送り情報でも、他の利用者に聞こえないように配慮したり、広く介助スペースが十分に取れるトイレでは周囲からみられることなく排泄介助を行うなど、プライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全スタッフがそのように心がけているつもりだが、時としてスタッフ本意になる可能性も否定できない。スタッフ個々の意識を常に高く持って支援に当たりたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の発言や態度をしっかりと観察し、その方にあった役割を提供している。洗濯物干し、洗濯畳み、机拭き、お盆拭き、消毒、床の掃除、食事の盛り付け等をおすすめしたり、一緒に行ったり、その時のお気持ちに沿いながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお化粧品や身だしなみ、衣類のコーディネートスタッフと共に行うよう心がけている。時として、整容が不十分な事があるため、職員同士で声を掛け合い、指摘し合えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は配食サービスを利用している。調理関連の時間をしっかりと丁寧なケアを行えるように工夫している。献立で食べれない物は、個別に代わりの物を提供する等の工夫を行っている。	基本的には配食サービスを利用し、みそ汁は事業所内で暖かいものを提供したり、キザミ食は事業所内で利用者の状態に合わせて提供している。ふりかけ、おかゆなどの個別対応により、食事作りの負担を避けつつ利用者の状態に合わせて食事を楽しむことができるよう、支援している。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調維持のため水分や食事量に制限のある方もおられるが、スタッフがトータルを計算しながら提供している。おいしく飲食できるよう、ゆっくり丁寧にケアし、何度かに分けたり、味を変えたり工夫しながら提供している。ノンアルコールビールも随時提供し、おいしく飲んで頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に応じた毎食後の口腔ケアが維持できている。悩みがあれば訪問歯科にも随時相談している。歯磨き粉等の買い物もサービスで行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄自立への支援を継続できている。時間を決めてトイレに誘導し、トイレで気持ちよく排泄できるようケアしている。</p>	<p>事業所では「排泄最優先の原則」をきっかけ、水分や運動、食事の改善が随時行われている。医師の指示による下剤や、排泄のしやすいタイミングでのトイレ誘導など、ケアプランに反映しどの職員でも実行できるようにしている。また、トイレ介助がしやすいトイレ内テーブルも使用するなどの工夫をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>主治医に個別に排便コントロールの指示を頂いており、それに準じて対応している。また、排便量が少なかったり、便の形態や色、におい等に異常があれば、随時訪問看護師に報告し、相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の気分でない際や、バイタルに異常があれば時間や日をずらし、原則週2回の入浴を行っている。また、個々が安楽に入浴できる方法等については絶えずスタッフが検討しながら取り組んでいる。また、便失禁等で汚れた際も随時入浴を行い、衛生的かつ気持ちよくお過ごし頂いている。</p>	<p>基本的に週2回入浴を行うものの、利用者の状態に合わせて回数やタイミングを調整したり、介助者を変えたり声かけの方法を工夫するなど、利用者が気持ちよく入浴できるように配慮している。また、入浴剤や季節に応じ柚子湯にするなど、入浴の楽しみも工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の体力やその時の覚醒状況を考慮し、離床と臥床を行っている。できるだけ自由に行き来できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についての重要性は全スタッフ個々が認識している。量の増減・服薬目的については、変化のあった都度把握するよう習慣ができています。また服薬ミスを防ぐため服薬前の、声だし確認を継続している。もしミスがあれば事故報告書を作成し、ご家族にも報告し、対策を立てて実行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントの徹底により本人の趣味趣向を把握し、日々のアクティビティに生かし、集団の中でもなるべく個々が主役を務めるような場を創出できるよう考えながら支援している。生け花や将棋、様々なお手伝いをお一人お一人に合わせて対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ対策で頻度としては多くないができる限り、本人、御家族の希望に沿うよう努力している。条件付きではあるが、近所への墓参りも行かれている。	感染症対策を行いながら、少人数での散歩を企画し、外気に触れることのできるように配慮している。また、状況を見ながらドライブや旅行などの企画も行い、利用者がなるべく外出が実現できるような工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に当GHでは個人の金銭をお預かりしていないが、本人が望む購入物があれば、御家族等に相談した上で「個人立替」という形を取り、スタッフと一緒に購入に向かう。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>御家族やご友人からの電話が入った際には、基本的に本人におつなぎしている。家族への近況報告も毎月一人2枚を目安に写真と共に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>随時換気を行い、朝はカーテンをあけ、夜はカーテンを閉めている。玄関やリビングには絵を飾ったり、季節の飾り付けをしてできるだけ工夫している。</p>	<p>共有部分は換気の配慮のほか、採光も工夫し、明るい雰囲気になるような飾りつけなど、利用者が生活感や季節を感じられるような居心地の良い空間ができるよう配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>混乱がないように基本的には座る席を決めているが、そちらに座られない場合もあるので、上手に移動をお願いしたり、変わる必要がなければその時の状況に合わせて対応している。イスやソファを活用して、ゆっくりできる時間もとっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内の家具や調度品は本人の慣れ親しんだ物を持ち込み落ち着く空間を作れるよう支援している。居室は自由にお使いいただけ、プライバシーが確保できるよう自由に鍵もかけられるし、入室する際はロックや声をかけている。</p>	<p>慣れ親しんだ家具や物品などを持ち込むことができ、居心地よく過ごせるように配慮している。鏡台や冷蔵庫を置く利用者もいるほか、プライバシー確保のため鍵をかけることもできる。職員は入室時に必ずロックや声かけをするようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>運動のための手すりを各階に設置したり、車椅子の方が残存能力を活用してトイレに行けるよう環境整備をしたり、個々に合わせた椅子を作成したりして自立生活への支援をしている。トイレの表示を大きくしたり、お部屋の場所を分かりやすく表示して工夫している。</p>		

V アウトカム項目(Aユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を各ユニットのスタッフルーム内に掲示し、毎朝の朝礼時に全員で復唱している。また、実践目標を明確な行動指針とし、実際に環境整備やケア実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方のご理解のもと、町内会の清掃や、お祭りの飾りつけなど、できる範囲で交流している。コロナウイルス対策でマスクを必ず着用したうえで近所を散歩した際には、地域の方に挨拶をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	体調に問題ない事と、必ず玄関先で検温をして頂くことを必須として、見学者等も随時受け入れ、説明等も行っている。耳鼻科の往診医を探してもいなかったため、地域包括センターに相談したこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ対策にて、資料のみの開催としているが、2ヵ月に一度の会議は定期的に継続している。やすらぎ新聞を2ヵ月に1回作成しており、全ご家族様にお配りしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	何か分からない事があれば、介護保険課へ相談している。また、事故が起こった際は、事故報告書を作成し、迅速に報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ間での「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催継続し、関連する内外研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年2回開催している。玄関にはセンサーを活用して、施錠はしていない。外に行きたい際は、傾聴し散歩等で寄り添って対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様、「身体拘束・虐待防止委員会」の活動は2カ月に1回の頻度で開催継続し、関連する内外研修も実施・参加している。事業所内勉強会も年2回開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今までは、全職員対象に法人内研修で学んでいたが、コロナ対策で研修が中止となり、参加できていない。オンライン研修が少しずつ整備されてきているので、随時参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、分かりやすく丁寧に説明を行っている。また、「不明な点や質問があれば、遠慮なくお申し付けください」ともあわせてお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会は開所以来夏・冬の2回の定期開催を継続しており、その場での意見・要望は運営に反映させるよう心がけている。しかしながら、コロナ対策にて、集まるのは現在中止している。書面でご様子等を配布し報告としている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的実施するケアカンファ・ミーティングは継続している。この場での意見・提案はケア等に反映させている。また定期的な職員面談も行っている。面談内容は記録に残し、必要に応じて人事の方へ報告も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年の目標として、「評価シート」を用いてスタッフ個々の目標設定を行ってもらい、達成に向けての助言や提案を面談の機会を設けて行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内は全職員に回覧し、希望を叶えるようにしている。また、後任育成も大事にしており、必要な研修を受けられるよう手配している。安心して働きながら習得していける環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内の他GHとの交流の場としても合同の研修会等（感染症予防研修等）を行っている。現在はコロナ対策でそのほとんどが中止となっているが、地域のケアマネ会議にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず事前面談を行い、ご家族やご本人のお話を聞いた上で入居1ヵ月程度の暫定ケアプランを作成し、GHに慣れて頂くための支援を行なっている。例えば将棋が得意な方には、将棋を媒介に馴染みの関係をきづいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安な事があればいつでも聞ける雰囲気づくりを行っている。また、こちらからも入居後のご様子を随時電話でお伝えし安心してもらっている。月に1回手紙とあわせて一人2枚を目安に写真をお送りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	月に2回の往診を主とし、随時必要に応じて主治医や訪問看護師、薬剤師とも電話等で情報を共有し、その方に合った対応を考えて実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「入居者様と共にある」という感覚をスタッフは常に持っている。スタッフが出勤時「よろしく願います」の挨拶に対し、入居者様も「今日もがんばってね」帰宅時「失礼します」の声かけに「気をつけて」と返してくれるほどの関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	年2回の「家族会」では積極的な意見交換が行えており、こちらの支援方針についても理解いただいております、相互の連携が確認できています。現在はコロナ対策で中止しています。書面や写真等でご様子を報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ対策にて原則面会禁止であるが、希望について工夫しながら窓越しの面会や、距離を保って玄関越しの面会を随時受け入れ、旧知の関係やなじみの方との関係を継続するように努めるようにしている。また、I-PADを活用し、2ユニットともZOOMでの面会も出来るよう環境を整備した。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	スタッフが間に入って関係をつないだり食事盛り付けや、机拭き、お盆拭き、チームレクなど、共同で連携して行う作業を入居者様全体で行いながら、入居者同士の関係強化を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された御家族からお便りや、野菜等のご寄付を頂いたりする機会がある。近隣で出会った際も、気さくに声をかけて頂いている。「以前お世話になりました」とイチゴを頂いたりもした。感謝しかありません。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時前事前面接に伺い、本人の生活空間を拝見し、GH居室に暮らしやすい空間を創出するように努めている。思いを言葉にできない方には、ご家族にも伺いながら、ご本人はどうしたいかを考えて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを用いて把握している。基本情報を作成し、可能な限り確認できる状況を整えている。入居前のケアマネージャーに情報を聞いたりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者個々に「生活状況記録」という暮らしの現状把握のため日々記入するシートを用いて継続して把握できる仕組みがある。全職員、出勤前に確認するようルール化している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者個々にケア担当を決めている。ご家族からも意見を随時受け付けており、月に1度のカンファレンスを開いて話し合っている。それらをふまえて、各階の計画作成担当者がケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者個々に「生活状況記録」という暮らしの現状把握のため日々記入するシートを用いて継続して把握できる仕組みがある。全職員、出勤前に確認するようルール化している。また、職員連絡ノートを活用し、情報共有を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>実施したことはないが、短期入所の利用も可能である。もし空室があり、その間に短期間の利用希望があれば可能である。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所のスーパーへ買い物やゴミ出しを行っている。天気やその日の気分を考慮して対応を行っている。行く際は必ずマスクを着用し、けががないように配慮している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>近隣の医療機関と医療連携体制を組み、必要に応じての受診通院の実施、またグループ主治医の往診を月2回定期健康診断年1回などを継続している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的な訪問看護が継続して受けられている。訪問看護師との随時の報・連・相もでき、しっかりと入居者の支援ができています。おかげさまで看取り介護をご希望されれば最後までケアさせて頂けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当GHは医療法人グループの一員であり、入退院時の関係はしっかり取れている。加えて近隣の入院応需の総合病院（JR鉄道病院）とも医療連携体制を組み普段から関係構築も図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の意向を吸い上げる書面や、重度化した際の指針等も作成しており、これに沿ってスタッフで連携して支援する方向を定めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	行方不明者捜索訓練を事業所内において開催し、注意喚起するような体制をとっている。しかし応急手当等実践力をつけるという点においてはもう少し取り組む必要があると感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	別法人ながら隣にある「特別養護老人ホーム」は緊急時の連携を確約して下さっており心強い。加えて、運営推進会議において町内会長様より「防災無線」の設置を提案して下さい、消防署を通じて拠点として設置を許可して頂いた。法人内では、GH大須と連携している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全スタッフがそのように心がけ行動しているつもりだが「これがベスト」という対応は存在しないと思う。常に自らを律することを怠らず入居者個々に接していきたいと思う。また、身体拘束・虐待防止委員会が2カ月に1回のペースで目標を掲げ、毎朝唱和している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全スタッフがそのように心がけているつもりだが、時としてスタッフ本意になる可能性も否定できない。スタッフ個々の意識を常に高く持って支援に当たりたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の発言や態度をしっかりと観察し、その方にあった役割を提供している。洗濯物干し、洗濯畳み、机拭き、お盆拭き、消毒、床の掃除、食事の盛り付け等をおすすめしたり、一緒に行ったり、その時のお気持ちに沿いながら提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお化粧品や身だしなみ、衣類のコーディネートスタッフと共に行うよう心がけている。時として、整容が不十分な事があるため、職員同士で声を掛け合い、指摘し合えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は配食サービスを利用している。調理関連の時間をしっかりと丁寧なケアを行えるように工夫している。献立で食べれない物は、個別に代替りの物を提供する等の工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調維持のため水分や食事量に制限のある方もおられるが、スタッフがトータルを計算しながら提供している。おいしく飲食できるよう、ゆっくり丁寧にケアし、何度かに分けたり、味を変えたり工夫しながら提供している。ノンアルコールビールも随時提供し、おいしく飲んで頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>個々に応じた毎食後の口腔ケアが維持できている。悩みがあれば訪問歯科にも随時相談している。歯磨き粉等の買い物もサービスで行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄自立への支援を継続できている。時間を決めてトイレに誘導し、トイレで気持ちよく排泄できるようケアしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>主治医に個別に排便コントロールの指示を頂いており、それに準じて対応している。また、排便量が少なかったり、便の形態や色、におい等に異常があれば、随時訪問看護師に報告し、相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の気分でない際や、バイタルに異常があれば時間や日をずらし、原則週2回の入浴を行っている。また、個々が安楽に入浴できる方法等については絶えずスタッフで検討しながら取り組んでいる。また、便失禁等で汚れた際も随時入浴を行い、衛生的かつ気持ちよくお過ごし頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の体力やその時の覚醒状況を考慮し、離床と臥床を行っている。できるだけ自由に行き来できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についての重要性は全スタッフ個々が認識している。量の増減・服薬目的については、変化のあった都度把握するよう習慣ができています。また服薬ミスを防ぐため服薬前の、声だし確認を継続している。もしミスがあれば事故報告書を作成し、ご家族にも報告し、対策を立てて実行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントの徹底により本人の趣味趣向を把握し、日々のアクティビティに生かし、集団の中でもなるべく個々が主役を務めるような場を創出できるよう考えながら支援している。生け花や将棋、様々なお手伝いをお一人お一人に合わせて対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ対策で頻度としては多くないができる限り、本人、御家族の希望に沿うよう努力している。条件付きではあるが、近所への墓参りも行かれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に当GHでは個人の金銭をお預かりしていないが、本人が望む購入物があれば、御家族等に相談した上で「個人立替」という形を取り、スタッフと一緒に購入に向かう。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>御家族やご友人からの電話が入った際には、基本的に本人におつなぎしている。家族への近況報告も毎月一人2枚を目安に写真と共に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>随時換気を行い、朝はカーテンをあけ、夜はカーテンを閉めている。玄関やリビングには絵を飾ったり、季節の飾り付けをできるだけ工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>混乱がないように基本的には座る席を決めているが、そちらに座られない場合もあるので、上手に移動をお願いしたり、変わる必要がなければその時の状況に合わせて対応している。イスやソファを活用して、ゆっくりできる時間もとっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内の家具や調度品は本人の慣れ親しんだ物を持ち込み落ち着く空間を作れるよう支援している。居室は自由にお使いいただけ、プライバシーが確保できるように自由に鍵もかけられるし、入室する際はロックや声をかけている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>運動のための手すりを各階に設置したり、車椅子の方が残存能力を活用してトイレに行けるよう環境整備をしたり、個々に合わせた椅子を作成したりして自立生活への支援をしている。トイレの表示を大きくしたり、お部屋の場所を分かりやすく表示して工夫している。</p>		

V アウトカム項目(Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ温品

作成日 令和3年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	回覧板にて当GHの情報をお伝えする。	回覧板にパンフレットをお配りし、地域へ情報を発信する。	町内会長にパンフレットを持参し、回覧板に入れて頂く。	2月21日に持参するため、1週間。
2	54	パッド類が段ボールに煩雑に置かれている。	A様の居室のパッド類入れを整備し、使いやすく見た目を美しく整理整頓する。	ご本人の了承のもと、使っていない備品の衣類棚を活用し、パッド類を整理整頓する。	2月15日に実施。
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。